

パンサー会長： 真の家庭に入られることとは、どのようなことでしたか？

真の家庭の一員になるなんて想像もしていませんでした。最終選考の一員(A-Finalist)になった時でさえ、自分が真の家庭に入ることは想像もしてなかったのです。

私には弟がいて、なんというか、皆さんの中にはご存知の方もおられると思いますが、、いつもより良い表現を見つけようとしているのですが、、英語でいえば Mentally Challenged? これは的確な言葉でしょうか？彼は私より5歳若く、今32歳ですが、精神的な年齢は、そうですね、7歳くらいかな。私の母が懸命に教えたおかげで、彼は字を読んだり、書いたりできるのですが、彼故に私は真の家庭のメンバーになることなど考えていなかったのです。

「真の家庭のメンバーに迎えられるには、完全であり、欠点がない者でなければならない」と聞かされていたので、それから言えばあまりにもかけ離れた者でしたし、自分が真の家庭に入ることなど考えもしませんでした。

お父様とお母様が私と話を少ししたいということで3階に行くように言われました。そこには薫淑様が通訳の為にいらっしゃいました。そこで私は、「絶対に自分は選ばれることはないと思っている」と言ったのです。私が実際に思っていることを言うべきでしょうか？(笑)

そして私は亨進様にも言ったのです。「あなたは何も知らないでしょう！あなたは現実を知らないのです。」

”you live like a Flower in Green House”

”あなたは、温室の中で育つ、花のように生きているのです”と。

「あなたは何を知っていますか？」と尋ねたのです！(笑) 彼のマーシャル・アーツの訓練のことなどは知らなかったのです。私は大胆だったのです。無知なる故の大胆さでした。彼はずっとこの時の事を持ち出してきて、私をからかったりしました。(笑)

真のお父様、お母様の事はカレンダーやその他の写真でしか知りませんでした。それで実際に目の前におられることが信じられませんでした。教会のカレンダーの写真を切り抜いて出てこられたような感じがしたのです。

でも、実際にお会いできたことがとても感謝でした。同時に私はとても無知な者だったのです。

最初の朝食での事なのですが、、、私は最初のミーティングで選ばれたのですが、誰も私が選ばれることを予想していなかったのです。ある本部の方が私の母のところに来て、私が選ばれるとは想像もしていなかったと話されました。全く関係者は予想していなかったことだったのです。

私はとても無知な者でした。朝食に招待されているので、朝7時に来るように伝えられました。それが何時だったかは覚えていませんが、、、でも、そのとき私たちは車を持っていなかったため、地下鉄かバスが運行し始めるまで待たないとなりませんでした。地下鉄が動き始めるまで待つてから行ったので、時間に遅れたのです。実際に着いたのが8時でした。その後で彼らが私をずっと待っていてくださったことを知ったのです。そんなこととは知らなかったのです。とても無知な者だったのです。そしてとても感謝しました。

それから長い学びの時期を過ごしてきました。夫にとっても感謝しています。彼は私を育てる為に忍耐してくれました。

パンサー会長：亨進様とあなたが、お父様の継承者として選ばれたことを知ったとき、そのことを思い出されますか？

正確には覚えていないのですが、私と亨進様が大きな教会で活動していたのか、それとも私はお父様に仕えていたの時だったか、はっきりとは思い出せません。

でも、ひとつだけ覚えていることは、全く考えもしていなかった世界会長の就任式の時、お父様から八大教本を頂き、その中の4-5冊はお父様のサインがなされていました。

それと共にいただいた多くの御言葉のリストも入れてありました。しかし、私達は、そのときは、2008年、くらい？これらの八大教本は使っていませんでした。お父様のいろんな御言葉、たとえば摂理の道(Way of Providence)とか、多くの重要な御言葉が入っていました。

それから、2010年頃、ちょうど、すべての王冠式が行われたころですが、なんといったら、いいでしょうか？式において、お父様を先頭に行進していて、私たちはそれについていくのですが、、私たちは3回の戴冠式をしました。

時々、自分でもすごく驚くのですが、全く最初意図がわからなかったのです。(笑)

何が何なのか、理解できていませんでした。(I was NO CLUE at that time!)

ある時、お母様が私をウェディングショップに連れだしたのです。それは戴冠式が行われる頃でした。お母様は、白い特別のガウンをセレモニー用に買うために、私をウェディングショップに連れ出されましたが、何故なのか全くわかりませんでした。お母様が何を考えておられるのか、、何も話して下さいませんでした。お母様は私にこのドレスを着てみなさい、これも着てみなさいと、試着させました。

私はお母様に言いました。私は誰の為にこれらのドレスを試着しているのでしょうか？と。この状況を把握しようと勤めました。私には5人の子供がいるし、再び結婚することはないのですが、、

あくまで誰かの為に連れてこられて試着されているものと考えていました。はっきり言って全く状況がわからなかったのです。

しばらく後、お父様とお母様が私達を呼ばれて、「あなた達は純潔か？ 性的に純潔か？」と尋ねられました。それでようやく状況が呑み込めてきました。何が起こりつつあるのか理解しはじめましたが、それが精一杯の状況で、御父母様からは正確には説明はなく、私は無知なる者でした。

パンサー会長：亨進様とあなたの、日本の兄弟姉妹に対する関心はどんなものでしたか？

亨進様は何とか日本の兄弟姉妹を助けようとされました。どのようにすればあの環境(日本統一教会文化?)を変えられるのか？

韓国では、日本の兄弟姉妹は2番目の市民として扱われていました。「彼らは我々を征服した。40年に渡り、殖民地にもした。だから日本人が韓国教会の為に金を捧げ持ってくるのは当然の事である」とか、、。しかし

その程度は長すぎであり、酷すぎるものになりました。

日本から来た一人の日本人の姉妹の事を覚えています。私の隣に来て彼女は話しました。彼女は日本語だけしかできませんでした。それに、私も今でこそ少しはできるのですが、その頃はまったく日本語が話せませんでした。

彼女が言ったのは、「いつまで日本の教会は韓国教会を経済的にサポートし続けなければならないのでしょうか？もう行き過ぎです。私達には何も残っていません。日本の責任者達は、私たちは韓国教会を救わなければならないと言い続けます。これは誰もが失っている状況です。」と泣きながら私に話しました。

私たちは彼らに助けが必要で、変革が必要だと感じました。亨進様は強くその答えを探されました。その為に初期の MINISTORY として、日本への訪問を始められたのです。

私はどれくらいの日本の教会に訪問したのかはわかりませんが、おそらく、30教会くらいだと思います。亨進様は教会の祈祷室で眠られました。彼は言いました。「献金はいりません！私に献金はしないでください。もしようとするなら、二度とその教会には来ません！」と。

彼の訪問する教会に対して要求したリストは、最初に「献金は受け取らない。個人的な献金は受け取らない。私たちが訪問するためにその費用を集める必要はありません。すべて自分達の経費でまかさないでください。欲しいものがあれば自分達のお金で買います。あなた達が私達の為に買わないようにしてください。」このような規則をきめました。

その次は、「私たちはホテルに泊まるつもりはありません。教会の中に泊まる部屋を用意してください。」

私たちは教会の祈祷室で、よく寝ることになりました。

そこで亨進様は彼らに会い、現状を見ることができました。そこで亨進様は実際のシステム、腐敗していることを知りました。彼は日本の兄弟姉妹をそこから助けだそうとしたのです。

パンサー会長：亨進様とあなたの、韓国教会に対する関心はどんなものでしたか？

亨進様はキリストの重要性を示そうとしました。お父様の重要性です。その頃、教会でのメンバーのムードは、あなたは氏族メシアです、あなたは国家メシアです、あなたはメシア、私もメシア、みんな何かのメシア。このような状況でした。

そこで亨進様はキリストのユニーク性を強調しました。どうして私達は救いとしてのキリストが必要なのかということ。それは彼のトピックです。何度も、何度も繰り返し戻られるものでした。

そして七死復活ですが、彼は本当に特別な霊的な経験をしました。そしてお父様の六番目の監獄、ヘリコプターの事故ですが、これはただ肉体的な監獄でなく、実際にお父様は霊的にサタンとの闘いをなされて、地獄の底から我々を救いだされたのです。自分の体を投げ捨てて我々を救われたのです。

亨進様は霊的な啓示を受け、七死復活の連続的な霊的な経験をされました。それはすばらしい経験でした。我々はお父様のところに戻らなければならない事、誰が命を賭け、捧げて、私達に命を、血統をくださったのか。とてもすばらしい時でした。

韓国のメンバーはそれに応えました。これは言いにくいことですが、韓国のメンバーは日本から資金が送られてくるのに馴らされていたのです。(Spoil)常に途切れることなく資金が流れこんできていました。

さらに、多くの日本の姉妹達が韓国の兄弟と結婚(祝福)をしました。百万人？え いや、すみません、違います、一万人？ そうですね、一万人です。一万人の日本の姉妹が韓国の兄弟と結婚しました。多くの日本の姉妹達は韓国の兄弟に深い信仰を示しました。

それは韓国教会の基礎と成りました。そして日本の教会、日本の兄弟姉妹が韓国の教会の為に犠牲になるのが当たり前になりました。韓国の兄弟姉妹たちは基本的に献金する必要がなかったのです。

亨進様はメシアであるお父様の、キリストのユニーク性を強調されました。彼は精誠をこめた行動をメンバーと始められました。メンバー達も敬礼条件や、キャンドル祈禱に参加するようになり、たくさん献金もするようになりました。

覚えていますが、4百万？数に困惑してしまいました。それは天福宮を建設する資金の4分の一になったのです。こんなことは今までありませんでした。韓国のメンバーも驚くほど反応してくれたのです。

私は立ち上がってくれた韓国のメンバーにとっても感謝しています。お父様も100%サポートして下さいました。お父様は天福教会を何度も訪問してくださり、御言葉を語って下さいました。多くのカンファレンス等を行うことができました。とてもすばしかったです。

お父様もお母様もとても喜んで下さいました。天福フェスティバルをやりましたが、お母様はとてもきれいな韓国式のドレスを着て、お父様と来られました。私達が4大聖人の銅像を造った時、これは実際献金で作られたのですが、お父様はとても喜んで下さいました。

その当時、霊的なときで、Cloud of Witness(過去の多くの信仰者達)のメッセージがきて、亨進様は4大聖人の銅像を、天福教会の前に立てたのですが、お父様は一度巨文島かどこかに行かれようとしたとき、車を折り返されて来られ、銅像の前で写真を取られました。お父様は本当にどのような形でも亨進様をサポートされました。

お父様はヘリコプター事故以後、うまく歩くことが困難になりました。それでもお父様は天福宮がどうなっているのか、ご自分で確かめられるように来られました。おそらく4-5回は多分来られたと思います。この数字が正しくないと、韓国教会の李教会長は気分を悪くされるかもしれませんが、、私の記憶では、5-6回、お父様は天福教会に来られたと思います。御父母様はとても喜んでおられました。

パンサー会長: 亨進様とあなたは、お父様と過ごされた2年間で何を学ばれましたか？

私には悔い改めなければならないことがあります。悔い改める何かがあるのです。

自分が真の家庭のメンバーになっても、真のお父様が本当にどんな方なのかわかりませんでした。私はほとんどの時を親としての育児に悩みながら、また教会でも牧師の妻でしたが、悩みながら過ごしてしまいました。また教会業務に振り回されていたのです。

本当にいろんな問題がいたるところに起こりました。日本の姉妹が韓国人の夫に暴力を振るわれたり、家庭内暴力が起こったり、、知っていると思いますが、教会の責任者が教会のメンバーと関係をもってしまったり、それはすべてが混乱した状況だったのです。私はまだ若く、あまりにも経験がなく、それらの事に振り回されてしまっていました。

天福教会できちんと仕えることができませんでした。できることはやりましたが、私はキリストを中心とする生活をするの意味がわかりませんでした。それがまったくわかっていなかったのです。

そして夫と私はお父様のそばで仕えることになりました。本当に実感したことは、お父様は本物だということです。(He is real Deal)それが本当に実感したことなのです。そして、一世たちが何故お父様をあんなに愛するのかを、本当に理解することができました。

お父様がなされることは全てが公的なのです。それが部屋の中であろうと、訓読会の部屋であろうと、メンバーの前であろうと、ひとつも違いがないのです。人がこのように生きることができることは、私には想像さえできませんでした。

人々はこのように言います。「お父様は3時間しか眠らないといいますが、私は3時間しか眠らない人を知っています。お父様が特別な人ということはありません。」また、「お父様は多くの組織を作り上げたり、多くの人道的な活動をされたといいますが、私は彼以上にやった人を知っています」と、、

しかし、私が見たのはお父様の世界的な偉業をなした側面でなく、神様の立場で人を見て、神の耳で聞く男性です。それを本当に目にしたのです。それは本当に私を感動させました。そのような人を全く想像できなかったのです。

お父様はキリストの例を示されました。お父様は私を信頼して下さいました。私の夫を信頼して下さいました。私達が自分自身を信じられない時でさえ、お父様は私達の中の神のようなものに期待をして下さっていたのです。それは私達を変えました。本当に変えたのです。私は本当にそう信じています。

私達はお父様につかまろうとし始めました。私達自ら自主的に、誰かによってではなく、、

(涙ぐまれ)ちょっと、感情的なりすぎたようです、、、それは、誰かによって、強制的、従っていくのでなく。

お父様は本物のお方なのです。お父様は本物のメシアなのです。私達はそれを見つけ出したのです。だから私は言うことができます。「あなたは本当に私の心を完全につかみました。だから私は本当にあなたに従っていくことができます。」と。お父様は本当に神の愛を実践されました。

(涙を拭かれながら)いくつかの事がありますが、お父様は私が気落ちしている時をご存知でした。それは信じがたいことでした。お父様はある時は地獄のように語られ、次の瞬間には天国のように語られます。お父様は私の全てをご存知で、私の物に対する見方を直して下さいました。それも努力を要せず、とても自然なことのように。お父様を憎むようなひと時もありました。それはお父様が私の子供を取り上げられたり、私の自由を取り上げられたりしたときのことで、でも次の瞬間にはこう言えました。「私達が生きているようにお父様も人生を生きてください。」私はそれだけしか言えませんでした。「唯一の方」です。メシアは一人だけです。それが私に言えることです。

パンサー会長: 亨進様とあなたの、お母様との関係はどうでしたか？

亨進様はとても面白い人です。本当に面白い人なのです。(Funny Person)それは彼が7番目の息子で、一番下で、6人の兄を持っていて、御父母様の11番目の子供なので、末っ子のスピリット、フリースピリットを持っているからです。

彼はとても愛らしかったのです。私は彼が幼かった頃のことは見ていませんが、とても愛らしかったと聞きました。彼のあだ名は“RABBIE ”、とても愛らしいでしょう。彼の姉妹達は、彼を非常に愛していました。お母様もとても愛されていました。

ある、ひとつの写真、それは子供のころの写真をめくっていて見つけたものですが、彼はピンクのスーツ、ピンクのジャケット、そしてピンクのパンツを着ていました。誰がこのようなピンクのスーツを着るのでしょうか？誰がいったいこんな服を買ったのでしょうか？

亨進様は、「そうだね、、、お母様は私に着せる服で楽しんでおられたんだ！」と。「でもピンクスーツはやりすぎじゃない？」「そうだな、私は愚かだったかもしれない(I was Stupid)！」彼は自ら進んでこのピンクスーツをきたようです。彼はその時9歳でした。私には9歳の息子がいますが、彼は絶対に着ないでしょう！絶対に！！(笑)彼は自ら進んでピンクスーツを着たのです。亨進様はお母様の愛情が大好きだったし、周りの注目を集めるのも好きだったようです。お母様が彼に与えたものや、姉妹達が与えたものを喜んで、楽しんでいたようです。亨進様はとてもユーモラスな人なのです。彼は冗談を話すのが好きだし、いたずらが好きな人で、揉め事を起こすのも好きでした。

お母様が着替えをするためにクローゼットにいた時、亨進様は”マミー”とお母様を呼ばれました。お母様は、”私は、着替えているから近くには来ないように”と言われました。しかし、彼は何もなかったようにクローゼットに入っていました。

私は彼をつかみながら、はいちやいけなんでしょうと止めようとしたのですが、問題ないよと入っていました。当然、私は中に入りませんでした。そして、彼は入っていくやいなや、”オー、お母さんはまだ、S ラインの体つきじゃない！お母さん、まだすごくセクシーだよ！”と言うのが聞こえました。お母様は彼の背中をたたきながら、オー アイゴー、信じられないわ、何をしているのよ！と、お互いこのような状況でした。

亨進様は、なんと云えばいいのか、彼は、女性への話し方をよく知っています。本当に彼は良く知っているのです。

私にとってお母様はとてもすばらしい義理の母です。私はこれを言わなければなりません。韓国で女性が夫と離婚する理由のトップ3は、姑との関係の難しさによるものです。それは真剣な関係なのです。

そこで面白い話があります。義理の母は韓国語でシオモニと呼びます。

義理の姉妹達の間でのジョークがあります。彼女達は、私たちは”シグムチ”は必要ない！シグムチは、ほうれん草の事ですが、同じシの発音で始まるので、私達は、シグムチは食べない。これは同じレベルなのだから。このように冗談をいうのは、お互いの関係が非常に難しいことからくるものです。

お母様はとてもすばらしい義理の母です。特に個人的なレベルでは、、、まだ祝福を受けて間もなく、家庭を持ったばかりの頃、私はまだ19歳でしたが、明らかに私の部屋はすごく散らかっていました。

一度、私と亨進様が寝ていた時、お母様が部屋をノックされました。誰かがノックしていると思いましたが、まさかお母様が来られているとは想像もしていませんでした。

私は、オーケー、誰ですか？と尋ねました。でも、反応がありません。それで、私はドアまで歩いて、ドアを開けると、そこにお母様が立っておられました。私は部屋が余りに散らかったままなので赤面してしまいました。でも、お母様は何も言われませんでした。

当然、お母様には豚小屋ような中が見えたと思いますが、お母様は何も言われませんでした。ただお母様は、”

あなたに会いたかっただけ”と言われました。とても感謝しました。とても感謝しています。

亨進様は、とてもお母様と良い関係をもっておられました。私は特にお母様との関係にはそんなに気を使う必要がありませんでした。それは亨進様自身が周りの雰囲気をやかにさせる人だったからです。

ある時、お母様が少し私を怒られていたとき、何が原因だったか覚えていませんが、亨進様は「私がおもう解決したから！大丈夫！」という風に、私は特に何もする必要はありませんでした。

お母様は、とても私達の子供達を愛されました。何度も訪問して下さいました。私が最初の子供を生んだ時、お母様は病院に来て下さいました。お母様は個人的レベルでは、とてもすばらしい義理の母です。個人的なレベルでは、お母様とは全然問題はありませんでした。

翻訳: Follow My Heart

<http://ameblo.jp/truemoonycanada/>

動画: <https://www.youtube.com/watch?v=zVs502ceCZM>

※翻訳された Follow My Heart さんの許可を得て少し要約しています。